

授業科目	子ども環境論【講義】		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記		単位	2
授業の目的と概要	<p>未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。「子ども環境論」では、子どもの育つ環境を総合的に見つけ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。</p> <p>授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。 2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。 3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	子どもと環境について	情報の整理		
第2回	子どもの家庭環境① 変化する家族形態	家族形態について調べる		
第3回	子どもの家庭環境② 家族機能の変化	社会の問題を調べる		
第4回	子どもの虐待—その背景	虐待について調べる		
第5回	子育て支援	社会の問題を考える		
第6回	子どもと住まい	住宅について調べる		
第7回	子どもとまち～地域で育つ	まちの問題を考える		
第8回	子どもの遊び環境～遊びのサンマ	子どもの遊びを考える		
第9回	子どもと自然	自然環境について考える		
第10回	子どもと環境教育～ドイツの事例	事例収集		
第11回	ドイツ森の幼稚園	事例収集		
第12回	ビオトープ・園庭改造	事例収集		
第13回	プレイパーク	事例収集		
第14回	プレイリーダーと子どもたち	事例収集		
第15回	まとめ	子どもの環境についての課題の抽出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	木曜日 9:10～12:20	メールアドレス		

授業科目	マイノリティを生きる【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴・赤枝 香奈子・五十嵐 ゆり		単位	2
授業の目的と概要	<p>現在社会のなかで「マイノリティ」と呼ばれる人々がいる。これらの人々は「マイノリティ」ゆえの様々な苦勞を強いられている。また、同時に苦しみだけではなく喜びも感じている。これらの人々を正しく理解し、ともに生きていく同朋としての認識を育てることを目的とする。</p> <p>ここでは特に「マイノリティ」と呼ばれる当事者の方の話や関係者の話を聞き、自分自身の問題や社会の問題と関連付けながら考察を深めていく。</p>			
到達目標	<p>マイノリティーについて正しく理解し説明することができる。</p> <p>自分自身と関係付けて、その人々を同朋と考えていくことができる。</p> <p>マイノリティーの人々の現在置かれている社会的な立場を理解できる。</p> <p>無意識のうちに差別構造を支えている、自分の存在にくづくることができる。</p> <p>「包摂」をうたわねばならない「排除」を前提とした社会の在り方に気づくことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・今回の講師詳細について	感想レポート		
第2回	マイノリティーとはなにか？	感想レポート		
第3回	障害について（1） 障害とは	感想レポート		
第4回	障害について（2） 発達障害	感想レポート		
第5回	当事者の話（1）ダイバーシティという考え方について	感想レポート		
第6回	当事者の話（2）肢体不自由の方	感想レポート		
第7回	当事者の話（3）弱視の方	感想レポート		
第8回	ソーシャルインクルージョンについて	感想レポート		
第9回	当事者の話（4）LGBTについて、セクシュアルマイノリティ当事者の方	感想レポート		
第10回	当事者の話（5）トランス男性として生きる先輩	感想レポート		
第11回	支援者の話（1）同成婚訴訟などの弱者支援の弁護士さん	感想レポート		
第12回	差別について	感想レポート		
第13回	支援者の話（2）平和学を研究している方	感想レポート		
第14回	支援者の話（3）ホームレス支援をしている方	レポート		
第15回	まとめ	レポート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ テーマについては講義中にお知らせします			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>当事者や関係者のお話を聞くことが多くなると思いますが、ここでのお話は他では話さないでください（守秘義務）。また3人で担当しますが外部から話していただける方との関係でシラバス通りに進まないことが予想されます。</p> <p>講師の順番などについての詳細は、初回のオリエンテーション時に紹介します。</p> <p>講義に来てくださる当事者の方の都合で、予定が変更になることもあります。ご了承ください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	「はじめて学ぶLGBTー基礎からトレンドまでー」石田仁 ナツメ社			
参考図書	「教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ」風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 法律文化社			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	仏教福祉【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活実態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。 2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたかを説明することができる。 3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べるができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には仏教福祉活動の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	感想カードを提出		
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義	感想カードを提出		
第3回	仏教と福祉はどう結びつくのか	感想カードを提出		
第4回	親鸞の思想と福祉の関係性について	感想カードを提出		
第5回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ	感想カードを提出		
第6回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ	感想カードを提出		
第7回	平安時代における穢れの意識の展開	感想カードを提出		
第8回	中世被差別民の形成と仏教	感想カードを提出		
第9回	鎌倉仏教と救済事業	感想カードを提出		
第10回	幕藩体制下での仏教救済事業	感想カードを提出		
第11回	明治維新と仏教側の対応	感想カードを提出		
第12回	仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業	感想カードを提出		
第13回	戦時厚生事業と仏教	感想カードを提出		
第14回	戦後社会福祉の展開と仏教	感想カードを提出		
第15回	まとめ	感想カードを提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ 受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

授業科目	日本国憲法【講義】		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 教育者・保育者を目指す者として憲法を学ぶ意義を意識する。 2. 人権規定についての概要と代表的な裁判例について学ぶ。 3. 統治機構の役割と三権相互の関係について検討する。 4. 平和主義、憲法改正について現在の議論状況を把握する。			
到達目標	1. 「人権」、近代立憲主義を前提とした「憲法」の意味を説明できる。 2. 日本国憲法の重要な条文の内容を説明できる。 3. 現実の社会で起きている事象に憲法の観点をあてはめ、考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	教育者・保育者となる上で憲法を学ぶ意義	3限：テキスト「プロローグ」 4限：テキスト第1章を予習		
第2回	日本国憲法の基本原理	3限：第14章 4限：第2章を予習		
第3回	人権の享有主体／公共の福祉／私人間効力	3限：第1章（4以外）・第2章 4限：第3章を予習		
第4回	幸福追求権	3限：第1章4 4限：第4章を予習		
第5回	法の下での平等	3限：第3章 4限：第5章を予習		
第6回	精神的自由権（1）思想・良心の自由、信教の自由	3限：第4章 4限：第6章を予習		
第7回	精神的自由権（2）学問の自由・表現の自由	3限：第5章・第6章 4限：第7章を予習		
第8回	経済的自由権	3限：第8章1 4限 第8章を予習		
第9回	生存権／子どもの貧困	3限：第8章2 4限 第9章を予習		
第10回	教育を受ける権利／労働基本権	3限：第7章 4限：第10章を予習		
第11回	国会	3限：第10章 4限：第12章1～3を予習		
第12回	内閣／財政／地方自治	3限：第12章・第13章 4限：第12章4,5を予習		
第13回	裁判所と違憲審査権	3限：第12章4 4限：第13章を予習		
第14回	映像視聴（ハンセン病問題に関するものを予定）	感想文作成		
第15回	平和主義／憲法改正の手続きと限界	3限：第11章 4限：第14章を予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	なし			
小テスト等	30％（ワークシート・映像視聴の感想文）			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、その回の講義内容を友人や教員に尋ねるなど、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	3限（初等）：西原博史・斎藤一久『教職課程のための憲法入門』（弘文堂、2016年） 4限（幼保）：橋本勇人編『保育と日本国憲法』（みらい、2018年）			
指定図書	中西新太郎・箕輪明子編著『〔第2版〕キーワードで読む現代日本社会』（旬報社）			
参考図書	工藤達朗編『やわらかアカデミズム・（わかる）シリーズ よくわかる憲法〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2013年） 初宿正典ほか編『目で見る憲法〔第4版〕』（有斐閣、2011年）			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	心理学概論Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。 それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。		
到達目標	①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る ②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。 ③集団における行動の特徴について説明する事が出来る ④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明する事が出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C(3)-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C(3)-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学とは①：心理学の起源、歴史	心理学の歴史についての復習	
第2回	心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域	心理学の領域と成果についての復習	
第3回	発達①：人間の発達段階とは	発達段階の特徴についての復習	
第4回	発達①：発達段階の理論	発達理論の整理と復習	
第5回	発達③：言語の発達	言語の発達についての復習	
第6回	発達④：社会性の発達	家族や友人関係の発達についての復習	
第7回	まとめ①：心理学の歴史、発達についてのまとめ	心理学の歴史と発達心理学の整理	
第8回	性格①：人格の特性について	人格のとらえ方の復習	
第9回	性格②：性格の分類	人格理論の復習	
第10回	性格③：性格の形成	性格形成の要因についての復習	
第11回	性格④：集団と性格	集団が正確に与える影響についての復習	
第12回	社会①：集団における個人の行動	集団における性格と行動についての復習	
第13回	社会②：個人と対人関係	個人と社会的知覚についての復習	
第14回	社会③：同調行動について	同調行動の経験についての振り返り	
第15回	まとめ②	人格と社会心理学の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ まとめの復習テスト		
レポート	20％ 授業中のショートレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10％ 講義に対する積極的態、理解度をレポートにて確認		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	火曜日 5限	メールアドレス	

授業科目	特別支援教育総論【講義】	開講時期	前期
担当教員	酒井 均・今里 順一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>障がいについて知り、その特徴についての理解を深める。 個々の障がいに応じた発達を援助する方法についての理解を深める。 個々の障がいに対する教育の理解を深める。</p> <p>発達において大きな課題となる障がいについて学習していきます。最近よく話題にのぼる発達障害についても詳しく学習していきます。 それぞれの障がいの特徴を理解し、その支援（教育・法制度も含む）について学習していきます。</p>		
到達目標	<p>障がいについてその特徴を説明できる。 障がいに応じた発達を援助する方法を説明できる。 障がいに応じた教育を説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心C福C (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心C福C (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション	レポート作成	
第 2回	障がいについて	レポート作成	
第 3回	知的障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第 4回	情緒障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第 5回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育	レポート作成	
第 6回	ADHDについて 特徴と教育	レポート作成	
第 7回	LDについて 特徴と教育	レポート作成	
第 8回	病弱虚弱について 特徴と教育	レポート作成	
第 9回	視覚覚障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第10回	聴覚障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第11回	言語障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第12回	運動障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第13回	重度・重複障がいについて 特徴と教育	レポート作成	
第14回	特別支援教育とは その歴史	レポート作成	
第15回	特別支援教育とは 現状とこれから	レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	ショートレポート30%、最終レポート70%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	受講態度も参考にします		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の最後に課題を出します。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省		
オフィスアワー	水曜日12:30~13:00 生息地8号館 4F	メールアドレス	

授業科目	知的障がい者の教育【講義】	開講時期	後期
担当教員	酒井 均	単 位	2
授業の目的と概要	知的障がい児・者の基本的知識、発達特徴を理解する。その上で知的障がい教育の歴史と現状、教育課程、指導の方法についての概要を学ぶ。また、自立活動やキャリア教育についてと学び、それに向けた関係機関との連携の重要性について理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい児・者の教育の歴史や現状を説明できる。 ・知的障がい児・者の基本的知識、発達特徴について説明できる。 ・知的障がい児・者の多様なニーズに応える指導について説明することができる。 ・知的障がい児・者の自立活動に向けての支援について述べるができる。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション	ショートレポート	
第2回	知的障がいの基本的理解 知的障がいの心理と生理と病理 1	ショートレポート	
第3回	知的障がいの基本的理解 知的障がいの心理と生理と病理 2	ショートレポート	
第4回	知的障がいの基本的理解 実態把握の方法	ショートレポート	
第5回	知的障がい教育の基本的理解 障害児教育とは	ショートレポート	
第6回	知的障がい教育の教育の基本的理解 特殊教育から特別支援教育へ	ショートレポート	
第7回	知的障がい児に応じた教育課程 教育的対応の基本	ショートレポート	
第8回	知的障がい児に応じた教育課程 特別支援学校における知的障がい	ショートレポート	
第9回	知的障がい児に応じた教育課程 特別支援学校以外における知的障がい	ショートレポート	
第10回	知的障がい児に応じた教育課程 幼稚部・幼稚園における知的障がい	ショートレポート	
第11回	知的障がい児に応じた教育課程 教科・教科外の指導	ショートレポート	
第12回	知的障がい児に応じた教育課程 自立活動について	ショートレポート	
第13回	ユニバーサルデザイン授業とインクルシブ教育について	ショートレポート	
第14回	キャリア教育と職業訓練	ショートレポート	
第15回	関係機関との連携、保護者支援	最終レポート	
成績評価	割 合 (%) 、 種 類 ・ 評 価 基 準 など		
定期試験	なし		
レポート	ショートレポート (事例検討を含む) 30% 最終レポート70%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の最後にショートレポートをだします。 遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなします。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省		
オフィスアワー	水曜日お昼休み (12時30分～13時)	メールアドレス	

授業科目	女性心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったということができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることになります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1. 女性特有の心理臨床的問題とその問題に関わる文化・社会的要因について説明することができる。</p> <p>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べるることができる。</p> <p>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べるることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行い</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：女性の発達とライフサイクル	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第2回	女性らしくとは	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第3回	思春期における心理臨床：女性と食行動	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第4回	女性のライフコースとキャリア発達	厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を調べる	
第5回	女性のキャリア発達とその関連要因	自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第6回	現代の結婚事情	レポートを作成する	
第7回	親となるプロセス①：妊娠・出産に関わる意思決定	身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第8回	親となるプロセス②：現代の子育て事情	身近な女性から子育ての話を聞く	
第9回	ライフコースの調整とケア役割	どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回	ケア・テイカーとしての女性	家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回	中年期女性の選択	アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回	支え、支えられる中高年期	コンボイについて調べる	
第13回	うつと女性：なぜ性差があるのか	講義内容の復習	
第14回	ジェンダーの問題としてDVを考える	居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回	国際比較から日本の女性を考える	ジェンダーギャップ指数について調べる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％ 定期試験（到達目標達成度を測るための論述問題）		
レポート	25％ 中間レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いた レポート 2500字程度		
小テスト等	なし		
成果発表	15％ 授業後のショートライティング		
受講態度他	10％ 出席状況と受講態度を勘案する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなく、自分が気づいていなかったジェンダーの問題かもしれません。漠然と聞くのではなく、将来の自分や身近な女性をイメージし、自己関与しながら受講してください。</p> <p>授業中のスマホ操作は厳禁です。</p>		
教科書	毎回資料を配布する		
指定図書	使用しない		
参考図書	<p>肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ（著）『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯学書房</p> <p>園田雅代・平木典子・下山晴彦（著）『女性の発達臨床心理学』 金剛出版</p>		
オフィスアワー	水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	児童家庭福祉論【講義】		開講時期	前期
担当教員	上原 真幸		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、児童と家庭を取り巻く社会状況を知り、様々な問題について、関係する法制度の仕組み、援助の実際、援助を行う専門職としての倫理観について理解を深めることを目的とする。社会の状況により、児童の生活状況や、児童を取り巻く問題は変化する。変化の過程やその背景を把握するためにも、児童家庭福祉の理念や児童の権利を理解することが不可欠となる。歴史の中でどのような法制度が定められてきたのか、現在どのような法制度があるのかを知り、児童家庭福祉を実施する立場としての知識を深める。また、知識を得ながら、日常の中にある児童家庭福祉問題等に関心を持ち、意見や問題点を述べる力を養う。			
到達目標	①社会の中の児童家庭福祉に関する問題に気付き、挙げることができる。 ②法制度に明記される子どもの権利と権利擁護のための社会の仕組みを関連付けることができる。 ③各国や日本の児童家庭福祉の歴史的成り立ち、その変遷を読み取ることができる。 ④児童家庭福祉に関わる専門機関や施設の種類と、その役割を述べることができる。 ⑤児童虐待、少年非行、児童健全育成など、子どもと家庭に対する様々な福祉の取り組みについて述べるができる。			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	児童家庭福祉に関するグループディスカッションー	事前に児童に関する社会問題やニュースを3つ調べる。		
第2回	児童を取り巻く社会状況と児童の定義 ー社会、学校、家庭の変化と児童家庭福祉の意味ー	テキストp.11-23を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第3回	児童家庭福祉の成り立ち ー諸外国と日本の児童家庭福祉の展開ー	テキストp.40-55を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第4回	児童の権利とは ー児童の権利の歴史的経緯と現代の日常的問題ー	テキストp.24-39を事前に読み、事後に児童権利条約・児童憲章を熟読する。		
第5回	児童家庭福祉の法律・法制度 ー児童家庭福祉に関する法制度についてー	テキストp.56-70を読み、事後に関係法律のワークシートを完成させる。		
第6回	児童相談所について ー児童相談所の仕組みと役割ー	テキストp.70-78を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第7回	児童相談所の実務業務について ー相談受付から援助実施、措置制度までー	児童相談所の対応事例を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第8回	児童福祉関係機関内の情報共有・整理のグループワーク	関係機関連携の事例を事前に読み、事後にグループワークの感想をまとめる。		
第9回	児童福祉施設について ー各児童福祉施設の役割・目的的理解ー	テキストp.79-94を事前に読み、事後に児童福祉施設の目的をまとめる。		
第10回	社会的養護の実施 ー社会的養護と家庭的養護ー	テキストp.96-115を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第11回	障害・障害児者の福祉 ー障害の理解、障害児への福祉と保育ー	テキストp.131-149を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第12回	児童虐待の現状と課題 ー児童虐待の理解、対応と予防についてー	テキストp.150-161を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第13回	非行問題の現状と理解 ー少年法と非行少年への対応と支援についてー	テキストp.162-167を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
第14回	子どもの貧困問題 ー子どもの貧困の現状とその対策・支援についてー	子どもの貧困に関する資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習をする。		
第15回	児童健全育成 ーすべての子どもに対する児童家庭福祉の理解ー	テキストp.168-187を事前に読み、配布レジュメを用いて事後学習をする。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容に全般に関する試験を行う）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は印刷物を配布する。 講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に、児童や家庭に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、講義に参加すること。 A4サイズのノートを1冊準備すること。 授業に関する情報や、課題についての連絡は、筑女ネットを活用する。			
教科書	喜多一憲編『児童家庭福祉』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい			
指定図書	ー			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜5限	メールアドレス		

授業科目	発達心理学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	発達心理学では受精から死までの一生涯にわたる発達について学習する。発達心理学Ⅰでは胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。 ・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。 ・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。 ・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初C幼C (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生涯発達心理学とは	教科書はしがき、0章の復習 ミニレポート		
第2回	各時期における発達の特徴・発達の理論	教科書1章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第3回	胎児期の発達	教科書2章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第4回	乳幼児期の認知の発達	教科書3章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第5回	コミュニケーションと人間関係の発達(1) アタッチメントの発達	教科書4章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第6回	コミュニケーションと人間関係の発達(2) アタッチメントの個人差	教科書4章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第7回	言語の発達(1) ことばが芽生えるまで	教科書5章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第8回	言語の発達(2) 幼児期の言語発達	教科書5章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第9回	遊びの発達	教科書5章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第10回	自己の発達	教科書6章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第11回	感情の発達	教科書7章の復習の準備	復習プリントの準備	
第12回	仲間関係・社会性の発達	教科書7章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第13回	児童期の思考の発達(1) 学校での学び	教科書8章の復習の準備	復習プリントへの準備	
第14回	児童期の思考の発達(2) 動機づけ	教科書8章の復習の準備	期末試験への準備	
第15回	非定型発達への理解 まとめ	授業全体の復習・期末試験への準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 70%			
レポート	授業ごとの復習プリント・ミニレポート(4回) 30%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	受講態度が著しく悪い場合は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は禁止する。 積極的に質問すること。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	前期 月曜日4講目・木曜日休み 後期 金曜日2講目・木曜日休み	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学概論【講義】	開講時期	前期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、「人間理解」と「人間支援」に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を、臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的概念や理論について理解し、正しく説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性を理解し、その視点を身につけることを目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。 2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。 3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。 4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。 		
この授業が目的としてDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 関連する科目：カウンセリング概論、心理アセスメントⅠ・Ⅱ、人格心理学、健康心理学 この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助	「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する	
第2回	臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義	「コラボレーション」の意味と意義について整理する 小レポート①をまとめる	
第3回	臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング	最近見た夢を記録し、夢の意味するものについて考える	
第4回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き	診断とアセスメントの意味の違いについて調べる	
第5回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解	授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成	
第6回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解	小レポート②(講義の第3回～第6回の内容に関する課題)をまとめる	
第7回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状	正常と異常の判断基準について復習する	
第8回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助	統合失調症の症状について調べる	
第9回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント	うつ病の症状について調べる	
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント	心身症の種類と症状について調べる	
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント	小レポート③(講義の第7回～第11回の内容に関する課題)をまとめる	
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待	ADHDとアスペルガー症候群について調べる	
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざまな	児童期・青年期の発達課題について調べる	
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題	小レポート④(講義の第12回～第14回の内容に関する課題)をまとめる	
第15回	総括 これまでの講義の重要ポイントのまとめ	配布資料、ノート、返却された小レポートの整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験(60点満点)		
レポート	40% 4回的小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点]		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語や離席については、適宜、注意をいたします。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、講義内容を自己の体験や観察と照らし合わせながら受講してください。		
教科書	なし 毎回レジュメを配布する		
指定図書	なし		
参考図書	河合隼雄『カウンセリングの実践問題』誠信書房 河合隼雄『心理療法序説』岩波書店		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	発達心理学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、基礎科目のうち人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえで人の心の発達とはどういうことを理解するための科目である。思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の抛り所としていたものを失う、喪失を体験する危機の時でもある。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。 3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。 			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 関連する科目：発達心理学Ⅰ この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	思春期の特性、第二性徴と身体的発達	自分の思春期体験について振り返りまとめる		
第2回	思春期の心理と危機	自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理		
第3回	青年期の特色	「アイデンティティ」とは何かについて調べる		
第4回	青年期の心理特性（1）青年中期	アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴		
第5回	青年期の心理特性（2）青年後期	視聴した映画について内容を分析・整理		
第6回	青年期の発達課題	自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる		
第7回	成人期の特色	成人期に関係した配布資料を読む		
第8回	成人期の心理と中年の危機	中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す		
第9回	成人期の発達課題	親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する		
第10回	老年期の特色	老年期に関連する配布資料を読む		
第11回	老化に伴う身体的変化	老化に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる		
第12回	老年期の心理	高齢者の自殺の実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第13回	老年期の発達課題	高齢者の生き甲斐について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第14回	ターミナル期の心理的課題	ターミナルケアの実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第15回	総括	総括で話した、授業内容のポイントについて復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	0%			
小テスト等	40% [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 課題の内容は、①思春期に関するもの ②青年期に関するもの ③成人期に関するもの ④老年期に関するもの の4つである。			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。			
教科書	なし 毎回、レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		